

奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

NO. 13

(夏号：4)

2003. 7. 1

A N C : News Letter



「ネムノキ」 知名瀬一名瀬間県道 H15年7月撮影

梅雨あけ宣言を待たずに暑い日がやってきましたが、今月に入って日ごとに暑さが増してきています。梅雨の季節に咲いていた薄紫色したノボタンの花は長雨でしめりがちな気分を和ませてくれていましたが、今は野の花も夏の花へと変わりつつあります。道端には強い陽ざしにもかかわらず黄色のキダチハマグルマや紅紫色のグンバイヒルガオ(9ページ)の花が群生して咲いています。山を見渡してみますと、大和村から名瀬に行く途中で周り一面緑の草木が生い茂っている中で、1本のネムの木の花が満開に咲いているのがひときわ目立っています。

夏とはいえ、ここ数日続いている厳しい暑さのせいで少々疲れ気味になりがちですが、夏鳥たちは元気なさえずりを響かせていています。姿を目にすることはありませんが、早朝から「クィ、クィ、クィ、」と鳴くサンコウチョウの鳴き声は、まるで目覚まし時計の代わりをしているかのように思えます。

今年もセンターと共催で夏の行事(自然観察会、クラフト教室)を企画しています。今回は早朝の自然観察会も企画しましたので、日頃あまり山道を歩くことのない子供さんには良い機会ではないかと思っています。

まもなく夏休み、奄美の海は海水浴を楽しむ子供達でにぎやかになります。

お知らせ



* 奄美野生生物保護センターと共催の夏の行事について

☆クラフト教室 「ペットボトルで何かを作ってみよう」

日 時：平成15年7月23日（水）

場 所：奄美野生生物保護センター（企画会議室）

*使用後のペットボトルを使って何かを作ってみましょう。

素敵な作品が出来上がるかもしれません！

☆自然観察会 「チョウの下敷きを使ってみよう」

日 時：平成15年7月28日（月）午後1時30分～4時30分

場 所：奄美フォレストポリス（大和村）

各小学校に配布しました「奄美のチョウの下敷き」を実際に使ってチョウの観察をしてみましよう。

☆自然観察会 「夏の山道を歩こう」

日 時：平成15年8月4日（月）午前7時～10:00

場 所：瀬戸内町 林道第一由井岳線

*早朝の山道を歩いて野生の生き物（動物、植物）を探してみましよう。☆

☆クラフト教室 「葉っぱのスケルトンしおりを作ってみよう」

日 時：平成15年8月6日（水）午後1時30分～4時30分

場 所：奄美野生生物保護センター（企画会議室）

*木の葉っぱでしおりを作ってみましよう。

☆自然観察会 「星空観察会ー火星最接近ー」

日 時：平成15年8月27日（水）午後7:00～21:30

場 所：奄美野生生物保護センター前広場

*夏の夜空を望遠鏡で覗いてみましよう。

*自然観察会・クラフト教室への申し込み先

- ・奄美野生生物保護センター TEL 0997-55-8620
- ・定員になりしだい締め切らせていただきます。

参加者へのお願い

- ・自然観察会に参加される方は帽子、タオル、飲み物等は各自で準備してください。

協議会活動報告

企画展と講演会『奄美の植物たちの恵み』

企画展：平成15年4月29日～5月31日

場 所：奄美野生生物保護センター（企画展示室）

講演会：平成15年5月5日（月）午後2：00～3：30

講 師：田畑満大先生（奄美の自然を考える会会長）

【講演会の様子】

奄美野生生物保護センター開所3周年記念として、企画展「奄美の植物たちの恵み」を4月29日～5月31日に開催しました。展示室には奄美の植物の写真や、植物がどのように活用されているか解説を添えて展示しました。

展示に併せてツルグミの幹を刻んだものやクワの葉、オオイタビの葉を煎じたお茶を用意して来館者に試飲してもらいました。

また、企画展期間中の5月5日の子どもの日には田畑満大先生の講演会も行こなわれました。

奄美の豊富な植物が昔から私達に多くの恵みを与えていることを話されました。ツルグミの幹や葉を煎じて飲むと解熱や破傷風、腸炎などに効果があることや、タラの木は煎じて飲むだけでなく若芽は天ぷらや和え物にもできる山菜の王様であること、ソテツの実で味噌を作ることなど、食に関して詳しくお話してくださいました。他にはシャリンバイが染色に使われることや、イジュの木などは建築資材に使われていることなど、植物のさまざまな活用方法を教わりました。

お話を聞いた人からは、「奄美の野山や道端には宝物が豊富に転がっていると感じた」「植物にはそれぞれ特徴、効能がある事がわかった」などの感想が聞かれました。

何気なく眺めている植物から、私達人間はたくさん恵みを受けていることを改めて感じました。



新聞記事

【海日日新聞】

【大島新聞】

地域紹介

知名町

知名町は、沖永良部島の南西部に位置し、北は東シナ海、南は太平洋を隔てて沖縄本島が望めます。豊かな自然と長い歴史で築き上げた文化を大切に守り育て、うるおいとやすらぎのある町です。

私たちのお薦めする散策コースは、出発地のフローラルパークではテニス・ゲートボール・遊具施設で遊び、海岸沿いを歩きながら屋子母海岸の白い砂浜で砂と貝殻を探して思い出にしてください。屋子母海岸を出発して悠久幾千年、暗黒の地底に展開する大鍾乳洞、昇竜洞に行ってみましょう。昇竜洞は全長 3,500 m の内 600 m を一般公開しています。太古の昔から大自然の営みによって創造され、その神秘的な造形と輝きで入洞者を魅了しつづける地底のオブジェに触れてみてはいかがでしょうか。

隣島の知名町にきてみませんか。お待ちしております。



フローラルパーク



昇竜洞



フローラルパークと昇竜洞散策コース

このコースで見られる主な野生生物		
ガジュマル	ブーゲンビリア	ソテツ
ハイビスカス	クロトン	ゴールドンシャワ
メジロ	アゲハチョウ	シロチョウ
タテハチョウ	インガケチョウ	キアレナガバナ

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

『夏の自然日記：センターはみんなの図書館』

6月末に梅雨明けを迎え、奄美も本格的な夏のシーズンになりました。私は奄美が梅雨明けの時に沖縄県的那覇にいたのですが、一足先に梅雨明けしていた那覇は非常に暑く、外を少し歩いただけで汗が噴き出てしまいました。奄美に戻る時は厳しい夏の暑さを覚悟していたのですが、飛行機を降りると那覇に比べて少し涼しく感じるのです。地図の上で見ればほんの少し北に行っただけの距離なのですが、気候の違いを実感しました。

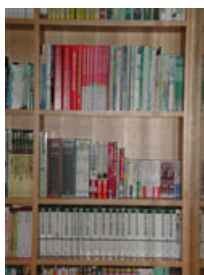
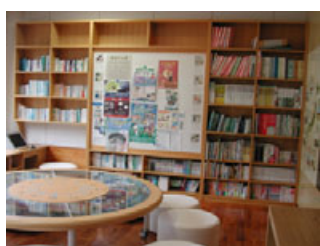
この時期のバードウォッチャーにとっての風物詩は、なんといってもアジサシの渡来です。奄美にはコアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシの主に3種類のアジサシが渡って来て、子育てをします。不思議なことに、このアジサシの渡ってくる数は年によって大きく変わります。去年はアジサシがあまり渡って来ていなかったのですが、今年は割と多いようです。これからの夏の厳しい暑さや、台風に負けることなく、元気に子育てをしてくれることを祈るばかりです。



さて、野生生物保護センターの展示棟内には、図書コーナーがあります。ここには生きもの関連の本や奄美の民俗文化、子供向けの絵本など、多くの本をそろえて来館する人が自由に読めるようになっています。

特に生きもの関連の本には力を入れています。このほど本をたくさん補充し、特に図鑑関係の本がかなり揃ってきました。中でも昆虫関係の図鑑は、日本国内で見られる種類を大半をカバーできる充実した内容となり、夏休みの自由研究で昆虫採集をしようと思っている子供さんにとって、特に調べものをする時に大変役立つと思います。また大変美しい写真を揃えた貝の図鑑や、変わったところではコウモリや土壌動物の図鑑も入りました。図鑑はただ写真や図版を眺めているだけでも『こういう生きものが自然の中にはいるんだ』と、新鮮な驚きと発見を与えてくれる入口のような存在です。もちろん図鑑類だけでなく、生きものに関する読み物や、先日発行された鹿児島県版のレッドデータブックなども閲覧できるようになっています。夏の暑い一時はセンターを図書館代わりにして読書、というのもいいかもしれません。

(センター 中村)



(←センターの図書コーナー。1500冊以上の図書が並んでいる。図鑑など、生きもの関連は特に充実。)

情報マップ 地図

夏にみられる野生生物

※ 参考文献： 図鑑奄美の野鳥
：東洋のガラパゴス

「ベニアジサシ」 チドリ目 カモメ科 全長 31 cm 方言名：イキュン

初夏の訪れと共に集団で南の海域から奄美にやってくる鳥で、全身白っぽく見えるが、頭は黒く、くちばしと足は紅色で背と翼の上面は淡い青灰色。尾は両端が特に長く、地上にいるときは翼の先より尾は長く出る。くちばしは渡って来てすぐは黒く見えるが、夏の暑さと共に基部から先端へ鮮やかな紅色に変わっていく。単独または集団で海面近くに上がってきた小魚を狙って頭からダイビングを盛んに繰り返す。繁殖期が近づくと求愛給餌や求愛ダンスを行い、無人島や離れ岩などで集団で繁殖する。奄美民話の中にも登場する身近な夏鳥の一つである。



鳴き声：ギユイ、ギユイ、など

生息時期：5月～9月

「シリケンイモリ」 イモリ科 全長雄 11 cm 前後、雌 14 cm 前後
分布：奄美大島・加計呂麻島・沖縄島・渡嘉敷島など

日本産のイモリは日本列島の特産種で、北は東北地方から南は沖縄まで広く各地に分布している。場所により形態や習性にかなりの変化があり、特に奄美と沖縄のイモリは尾が剣状になっていることからシリケンイモリと呼ばれている。シリケンイモリは奄美大島と沖縄島では水溜まりがあれば島内いるところにいるが、徳之島には生息していない。体形は本土でみられるアカハライモリに似てるが、これよりはるかに大きい。四肢が比較的太短くて、その下面は黄色またはオレンジ色をしている。腹面はオレンジ色だが、赤みの強いのもある。背面が白っぽい個体も見つかる。



「ネムノキ」 分布：本州以南

低地の日当たりのよいやや湿った原野や林縁に生える落葉高木。葉は偶数2回羽状復葉、葉柄の基部には大型の密腺がある。復葉の羽片は対生して5～15対、羽片には20～40対の小葉がある。小葉は無柄、狭卵状楕円形で鋭頭長さ10～15mm。花は夕方開花し、桃紅色の長い雄しべが花冠から多数突出して目立つ。豆果は広線形で長さ10～15cm。ヤエヤマネムノキは石垣島、西表島の海岸に近い森林に分布し、小葉は4～8対で卵状楕円形または卵形、先は円頭ときに凹頭なので区別がつく。和名は、夜間あるいは酷暑のときは相対する。小葉が相合することからきている。



「グンバイヒルガオ」

分布：本州（関東南部以西）以南

砂浜の前線に群生する全体無毛の多年生草本で、茎は長く地表をほう。葉は軍配形で質厚く、光沢があり、長さ3～8cm、幅4～10cm、先は凹入し、左右から2折りになる。花は全部開花することなく1花ずつ咲いていく。花冠は漏斗形で紅紫色、径5～6cm、先端は5浅裂する。果実は扁球形、径約2cm。種子には表面に密に黄褐色の毛があり、種皮は堅く、内部には空洞があるために水に浮きやすく、海流によって散布される。



☆奄美のチョウの下敷き紹介☆

協議会では平成14年度の活動で「わきゃ あまみ① 奄美の色さがし」のパンフレットに続いてわきゃ あまみ②として「奄美のチョウ」の下敷きを作成し、各市町村の教育委員会を通じて奄美の各小学校全児童と先生方へ配布いたしました。下敷きには奄美で見られるチョウの中から40種類を載せてあります。お子さんたちと一緒にチョウの名前を憶えてみてはいかがでしょうか。

『奄美のチョウの下敷き』



わきゃあまみ②
奄美のチョウ

奄美県

奄美には、これまで約40種のチョウが記録されているが、奄美には奄美ならではのチョウもいる。奄美のチョウを、奄美の人でもっと知ってもらいたい。奄美のチョウの姿を写真に撮り、奄美のチョウの名前を覚えてもらう。奄美のチョウの姿を写真に撮り、奄美のチョウの名前を覚えてもらう。奄美のチョウの姿を写真に撮り、奄美のチョウの名前を覚えてもらう。

種名	種名	種名	種名	種名	種名
1	アサギチョウ	2	アサギチョウ	3	アサギチョウ
4	アサギチョウ	5	アサギチョウ	6	アサギチョウ
7	アサギチョウ	8	アサギチョウ	9	アサギチョウ
10	アサギチョウ	11	アサギチョウ	12	アサギチョウ
13	アサギチョウ	14	アサギチョウ	15	アサギチョウ
16	アサギチョウ	17	アサギチョウ	18	アサギチョウ
19	アサギチョウ	20	アサギチョウ	21	アサギチョウ
22	アサギチョウ	23	アサギチョウ	24	アサギチョウ
25	アサギチョウ	26	アサギチョウ	27	アサギチョウ
28	アサギチョウ	29	アサギチョウ	30	アサギチョウ
31	アサギチョウ	32	アサギチョウ	33	アサギチョウ
34	アサギチョウ	35	アサギチョウ	36	アサギチョウ
37	アサギチョウ	38	アサギチョウ	39	アサギチョウ
40	アサギチョウ				

【南海日日新聞】

【大島新聞】

平成15年度協議会総会の報告

平成15年度協議会総会が5月15日（木）に大島支庁で開催されました。

議 題

- (1) 平成14年度・活動経過報告について
- (2) 平成14年度・収支決算について
- (3) 監査報告
- (4) 平成15年度・活動報告（案）の承認について
- (5) 平成15年度・収支予算（案）の承認について
- (6) その他

*平成15年度の活動計画・収支予算が承認されました。

第1回協議会の担当者会を開催

平成12年に協議会設立以来初めての奄美自然体験活動推進協議会担当者が6月9日（月）に大和村役場の会議室で開催されました。鹿児島県環境保護課、環境省の沖縄奄美地区自然保護事務所、各市町村の担当者が多く出席してくださいました。

協議会会長の永田武光大和村村長と沖縄奄美地区自然保護事務所の田端利用指導官が挨拶された後に出席者の自己紹介が行われました。

議 題

- (1) 奄美自然体験活動推進協議会活動について
 - ・平成14年度の協議会活動などについて報告
 - ・奄美のチョウの下敷きについて（配布の件など）
 - ・風だよりの地域紹介コーナーの件について
- (2) 環境省の実施する事業について
 - ・オオトラツグミ、アマミヤマシギの保護増殖事業について
 - ・マングース駆除事業について
- (3) 県の取り組みについて
 - ・鹿児島県レッドデータブックについて
 - ・鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例について
- (4) その他

以上の議題について担当者から内容の説明があり、話し合いが行われました。

後 記

第1回の協議会担当者会議に各市町村の担当者にご出席いただき有り難うございました。会議後の交流会にも多くの方が参加されて会話がはずんでいました。時間が過ぎるのを速く感じられたのではないのでしょうか？
次回の担当者会にもぜひご参加ください。お疲れさまでした。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

- 〒894-3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場 企画財政課
TEL：0997-57-2111
- (連絡・書類等送付先)
〒894-3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
TEL：0997-55-8620
FAX：0997-55-8621

